

令和6年5月6日

報道機関 各位

公益社団法人こども環境学会
代表理事 仙田 満
同会長 木下 勇
同20周年記念大会実行委員会
実行委員長 三輪律江

【取材のご依頼】こども環境学会20周年記念全国大会（東京）開催

拝啓 時下、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

こども環境学会は、2024年に設立20周年を迎えます。

この間、世界規模でのCOVID-19の感染拡大や世界各地での紛争勃発だけでなく、国内においても東日本大震災や都市水害等の自然災害の頻発、広がる経済格差、少子高齢化の一層進展等、子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、子ども達は翻弄されてきました。そのような中、2024年にこども家庭庁が設置され、こども基本法の施行、こども大綱の策定など、日本でもこどもまんなか社会の実現に向けた動きが加速しつつあります。また、子どもと最も身近な行政単位である地方自治体が、子どもの権利条約に明記された子どもの権利を実現する取り組みとして、ユニセフ「子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）」が推進され、開発途上国、先進国合わせて約40カ国3000自治体やコミュニティが、日本でも6自治体がユニセフ日本型CFCI実践自治体・候補自治体として活動を展開しています（2024年1月現在）。

こどもの育ちを軸に多領域の研究者と実践者が集う本学会は、こども会員も含め約1,000人の会員が所属しております。

学会設立の節目となる2024年度の大会は、**20周年記念全国大会（東京）**と題し、令和6年5月31日（金）～6月2日（日）の3日間にわたり、東京都港区の建築会館ホールにおいて、**こども環境学会20周年記念全国大会（東京）**を開催（現地とオンラインによるハイブリッド開催）することになりました。

つきましてはぜひ事前広報、当日取材等の取り計らいをいただきたく、よろしく願いいたします。

【お問い合わせ先】

〒106-0044 東京都港区東麻布3-4-7 麻布第1コーポ601

公益社団法人こども環境学会 20周年記念全国大会（東京）

実行委員長 三輪、副委員長 大西、仲

事務局 玉田、當本（トウモト）

Email : info@children-env.org <https://www.children-env.org/>

TEL03-6441-0564/FAX : 03-6441-0563

大会テーマ「こどもにやさしいまち・社会を目指して」

メインシンポジウム①では、藤原朋子氏（こども家庭庁成育局局长）、小酒井淑乃氏（国土交通省）をはじめ、土肥潤也氏（[特非]わかもののみち代表理事、こども・若者参画及び意見反映専門委員会委員長）、森祐美子氏（[特非]こまちぷらす理事長、横浜市教育委員）をお招きし「多分野施策領域からのこども環境学への期待」についてパネルディスカッションを行います。

メインシンポジウム②では、こどもにやさしいまち CFCI 実践自治体の首長（ニセコ町、安平町、富谷市、町田市）をお招きして成果をご紹介いただき、こども・若者の代表2名（前豊田市子ども会議子ども委員、2022年度国際こども平和賞受賞者）とのパネルディスカッションを行います。

分科会では「あいだから見るこどもの世界」を共通テーマに2つの分科会で深くディスカッションします。





ワークショップでは、ナチュラル・プレイグラウンド・インスピレーション（身近な自然物を使って、こどもたちも一緒にワクワクするような遊びの園を作ります）。

大会 HP : https://www.children-env.org/Education_and_enlightenment/convention

【参考資料】 大会冊子（抜粋版）

- 主催 公益社団法人こども環境学会
- 運営 こども環境学会 2024年大会（東京）大会委員会・大会実行委員会
- 共催 公益財団法人日本ユニセフ協会（6月1日のメインシンポジウム②のみ）
- 後援 こども家庭庁、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学術会議、一般社団法人防災学術連携体、国立研究開発法人科学技術振興機構、公益財団法人日本ユニセフ協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本都市計画学会、公益社団法人日本造園学会、一般社団法人日本環境教育学会、一般社団法人日本発達心理学会、一般社団法人日本保育学会、一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会、日本子ども社会学会、人間・環境学会、日本安全教育学会、日本感性工学会、公益社団法人日本小児保健協会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人全国建設室内工事業協会、一般社団法人都市計画コンサルタント協会、一般社団法人日本公園施設業協会、一般社団法人日本公園緑地協会、一般財団法人公園財団、一般社団法人日本造園建設業協会、公益財団法人都市緑化機構、IPA 日本支部、特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、国際校庭園庭連合日本支部、一般財団法人日本造園修景協会



 大会挨拶	3
20周年記念大会開催にあたって こども環境学会 会長 木下 勇	3
20周年大会を迎えて こども環境学会 代表理事 仙田 満	4
祝福ビデオメッセージ ロジャー A ハート、ロビン C ムーア	5
こどもにやさしいまち・社会を目指して 大会実行委員長 三輪 律江	6
オリジナルエクスカッション	7
タイムスケジュール	13
交通案内・会場案内	14
 大会プログラム	15
メインシンポジウム① 多分野施策領域からのこども環境学への期待	16
メインシンポジウム② こどもにやさしいまち CFC 推進とこども環境	18
分科会共通テーマ：あいだから見るこどもの世界	20
分科会Ⅰ 空間を超える居場所づくりとは	21
分科会Ⅱ みて！きいて！知って！ぼくのわたしのリアリティ	22
ワークショップ ナチュラル・プレイグラウンド・インスピレーション	23
 2023年度（第19回）こども環境学会賞の発表	24
学会賞受賞者表彰式および記念講演会	25
こども環境学会賞の受賞者紹介	26
 ポスターセッション・指定口頭発表	38
協賛企業広告	93
会員の現況等について	97
実行委員会・大会実行委員会リスト	98



こども環境学会会長、大妻女子大学教授、千葉大学名誉教授

木下 勇

こども環境学会2024年度大会（東京）

20周年記念大会開催にあたって

こども環境学会 2024 年度大会（東京）20 周年記念大会開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

本学会が設立されてから、この 20 年の間、日本は失われた 20 年、または 30 年とも言われ、経済の低迷が続いています。合計特殊出生率も過去最低を更新し、超少子高齢社会ともいえる状況を迎えています。失われた 30 年は経済だけではないことは明白です。子どもの権利条約を批准（1994 年）してからの子どもの権利の推進でも失われた 30 年と言っても過言ではないと思えます。

こども環境学会の設立総会が開催された 2004 年、建築会館ホールでの基調講演はロジャー・ハート氏（ニューヨーク市立大学教授）とロビン・ムーア氏（ノースカロライナ州立大学教授）でした。ロジャー・ハート氏は子どもの参画の世界的リーダーで、ユニセフの子どもにやさしいまち（CFC、以降 CFC と略す）を牽引しています（IPA 日本支部訳『子どもの参画』,2000）。ロビン・ムーア氏は都市環境の人間の心理面への影響要因を探る認知地図を考案したケビン・リンチのユネスコの Growing Up In Cities（「青少年のための都市環境」）のプログラムを継承して、子どもの参画の方法論を展開していました。

こども環境学会の 20 年には、この 2 人から示唆された子どもの権利面から子どもの環境を改善する子どもにやさしいまちづくりへの取り組みも含まれます。設立時に仙田初代会長は日本学術会議に子どもの成育環境分科会立ち上げに尽力し、分野横断的に、しかも 20 年間も継続して分科会委員長が会期ごとに分野で交代し、その都度、提言・報告を国にしてきました。初期から子ども省の必要性、そして子ども参画の CFC についても訴えてきました。その他の団体の運動、働きもあって、ようやく総合的部署、こども・家庭庁が 2023 年に発足し、子どもの権利条約に対応した包括的国内法が整備されました。

本学会の特色は子どもに関わる様々な分野で構成されている点、研究者と現場の専門家がつながる点にあると、設立時の熱き期待があったかと思えます。20 年の節目にもういちどその原点を確認したいと思います。そこでさらに、次の点も特色となるとよいかと思えます。当事者の子どもたちも多く参加する学会になれたらと。設立時にもささやかれていたことですが、今の我が国の状況では夢のような話で、口で言うは易く、実行はかなり難しいことと予想されますが、皆様の理解とご協力があれば、不可能ではないと思っています。本大会でその課題も明らかにして、一步一步、それに向けて進む行動する学会として、今後の 10 年、20 年先には「失われた」を脱却して、「創り出した」10 年、20 年と言われるようになればと思います。

大妻女子大学社会情報学部教授、千葉大学名誉教授、工学博士

東京工業大学で建築を学び、1984 年に博士号学位取得。世田谷区にて冒険遊び場づくりの支援とともに三世代遊び場マップづくりや子ども参画のまちづくりを進める。（社）農村生活総合研究所研究員を経て 1992 年より千葉大学園芸学部で教鞭をとり、2020 年 3 月に定年退職、4 月より現在に在る。日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり事業委員会会長など歴任。前こども環境学会副会長。著書に『ワークショップ～住民主体のまちづくりへの方法論』、『遊びと街のエコロジー』、『三世代が遊び場図鑑』、『アイデンティティと持続可能性』、『子どもまちづくり型録』など。



20周年大会を迎えて

こども環境学会20周年記念全国大会(東京)

東京工業大学名誉教授・環境建築家
大会委員長 仙田 満

こども環境学会代表理事

1941年神奈川県生まれ。東京工業大学卒業。工学博士。1968年に環境デザイン研究所を設立。東京工業大学等で教鞭をとりながら、こどもの成育環境のデザイン、研究を中心に活動を続ける。代表作は愛知県児童総合センター、国際教養大学中嶋記念図書館、マツダスタジアム、軽井沢風越学園、小田原三の丸ホール、石川県立図書館、エディオンピースウィング広島等。著書に「子どもとあそび」(岩波書店)、「こどものあそび環境」(鹿島出版会)、「人が集まる建築」(講談社)、「こどもを育む環境 蝕む環境」(朝日新聞出版)、「遊環構造デザイン」(左右社)等。

今年、こども環境学会は創立20周年を迎えます。

2003年にこども環境学会設立準備会が立ち上がり、2004年5月に創立されました。

発足の大会は今回の会場ともなる東京・三田の建築会館で開催されました。1990年代にこどもに関する領域の横断的な学術団体として学際的な学会があるべきと考えられ、こども環境学会が構想されました。1998年に日本建築学会で、こどもの成育環境に関心のある人たちを中心に委員会がつけられ、「こどものための建築・都市12ヶ条」という提言が発信されました。しかし、その内容は建築・都市というハードな分野での提言であり、こどもにやさしい都市の実現にはそれだけでは不十分ではないかと実感されました。

2003年から本格的にこども環境学会を立ち上げるべく、多くの方々への呼びかけがおこなわれ、準備会がもたれました。保育学領域で汐見稔幸先生、医学領域で東京大学医学部の織田正昭先生等が参加されました。2004年に発会式も兼ねた創立大会はアメリカよりロビン・ムーア教授とロジャー・ハート教授がかけつけてくれました。その時の盛り上がりはとても素晴らしいものでした。20年という年月はそれなりに長く、当時参加していただいた方の中には、すでに鬼籍に入られた方もいらっしゃいます。

2005年に日本学術会議に参画する機会が得られ、子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会がつけられ「我が国の子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の確立に向けて」と題する対外報告が2007年に発出されました。ここでこどもの成育環境の問題について第1に分野横断的な学術委員会がつけられるべき、第2に、行政においてもこども施策について横断的な組織が必要。そのため、国においてはこども家庭省を将来つくることを前提に、当面は総理府に子ども部局の統合性を強化すべきという、大きく2つの提言がなされました。その結果、翌年に日本学術会議では特別委員会として第1部から第3部合同の子どもの成育環境分科会が立ち上げられ、教育、保育、心理学、体育学、環境学、建築学等多様な領域による検討がなされ、期毎に提言が出されるシステムが出来上がり、現在も続いています。こども環境学会は日本学術会議の構成学会としても認知され、また、このこども成育環境分科会のメンバーに中心的な会員を送り、存在感を示しています。

2023年にこども家庭庁が発足し、こどもの成育環境政策においても、学会としてさらに関係を深めようとしているところです。

20年という歳月を経て、学会も世代交代がなされます。幸いなことに、創立メンバーから、若手の研究者・活動家に継承されようとしています。

しかしながらこの20年間におけるこどもの成育環境は良くなっているのでしょうか。世界では地球温暖化、戦争も深刻になっています。わが国でも少子高齢化、AI化等、さまざまな社会的状況の中で必ずしも良くなっているとはいえません。いじめ、虐待、こども・若者の自殺等、我が国のこどもの幸福感に関する多くの調査においてもきわめて厳しいところが見られます。

困難を乗り越える力をもって成長できる成育環境を、私達はこどものために用意しなければならぬと思います。そのためにもこどもの権利を守り、こどもの立場、視点に立って、幸せで、楽しいこども時代を過ごせる社会をいかにつくるか、私達の役目は極めて重要です。

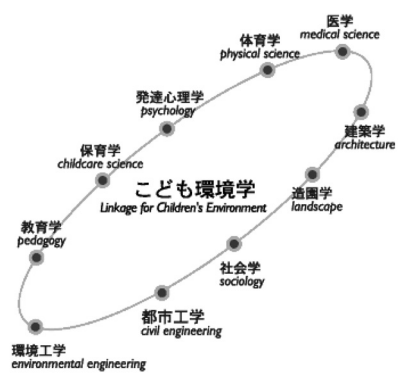
今回の大会においては、20年を振り返り、また次の20年に向けて、こどもの望ましい成育環境形成のために、大いに議論し、行動していただくとことを期待します。



子どもにやさしいまち・社会を目指して

こども環境学会20周年記念全国大会(東京)

大会実行委員長 三輪律江
横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授



こども環境学会は、こどもを取り巻く環境＝こども環境について共に研究し、提言し、実践していくなかで、学術的な総合科学『こども環境学』を確立してよりよい成育環境を実現していくことを目的に、2004年に設立されました。そして現在、こども環境学会には、多領域の専門領域に属する研究者、現場で日々こどもたちの育ちと向き合う実践者、こども会員も含め約1,000人の会員がそれぞれの領域と立場において、こどもの日々の育ちを軸とした研究、実践、そして社会への提言・発信や啓蒙活動を行っています。

その多領域による多様性は、本学会の最大の強みと考えます。そこで学会設立の20年目の節目となる2024年度の大会は、20周年記念全国大会(東京)と題し、まさしく、こどもにやさしいまち・社会を目指して、学際的な本学会が果たすべき役割を改めて捉え直す機会とするとともに、過去の大会テーマを俯瞰し地方の課題や実情を東京において発表・共有し合う大会として開催することにいたしました。

開催にあたってはこの呼びかけに快く賛同いただいた北海道から沖縄までの多くの実行委員の皆様と共に、様々なプログラムを企画・準備してきました。

大会前日(5月31日)のエクスカージョンは、大会初の試みとして、保育・教育、まちづくり、造園、施策において、こどもにやさしい特徴的な事業を進めている場所を選定し、個々が選び公共交通機関等で巡る自由訪問型スタイルで準備しました。

大会初日(6月1日)午前のメインシンポジウム①「多分野施策領域からのこども環境学への期待」では、学際的組織である本学会が行ってきた提言・事業の20年を振り返ると共に、こども家庭庁と国土交通省の方から、今の「子どもまんなか社会」実現に向けた施策・取組をご紹介いただき、こども・若者の参画や子育て当事者の居場所づくりを実践している実践者の方々とのパネルディスカッションを予定しています。

午後のメインシンポジウム②「こどもにやさしいまち CFC 推進とこども環境」は、こどもに最も近く身近な行政単位に焦点をあてて、公益財団法人日本ユニセフ協会と共催で実施します。現在、6つの地方自治体が、ユニセフ日本型「こどもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」実践自治体・候補自治体として活動を展開しています(2023年1月現在)が、その推進にはこども参画への理解・推進に向けた庁内での分野横断の体制構築が欠かせません。そこでメインシンポジウム②では、ユニセフ日本型 CFCI 実践自治体各々の取り組みとこども参画について、こども・若者の当事者も交えて議論する予定です。

さらに大会2日目には「あいだから見るこどもの世界」を共通のテーマとした2つの分科会を用意し、両分科会とも参加いただけるように時間設定をいたしました。

2日間で開催する、箱庭作成参加型ワークショップ公開プログラム「ナチュラル・プレイグラウンド・インスピレーション」は、こどもから大人まで自由に参加いただき、皆で作品を作り上げるプログラムです。またポスターセッションでは、応募いただいた中からの指定口頭発表としてより深い対話の時間を取れるよう準備しています。

全てのプログラムにおいて、実行委員の創意工夫が満載のプログラムになっております。実行委員一同、多数の方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

本大会に先立ちまして、大会プレセミナーを、2023年12月には金沢市にて「本に囲まれたこどもの育ち」と題して、2024年3月には豊田市にて「SDGs(持続可能な開発目標)とCFCI(子どもにやさしいまちづくり)ー今こどもの声を聴いて未来を確かなものにするために」と題して、それぞれのエリアの会員や自治体関係者の協力の下で開催し、多くの方にご参加いただきました。関係の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

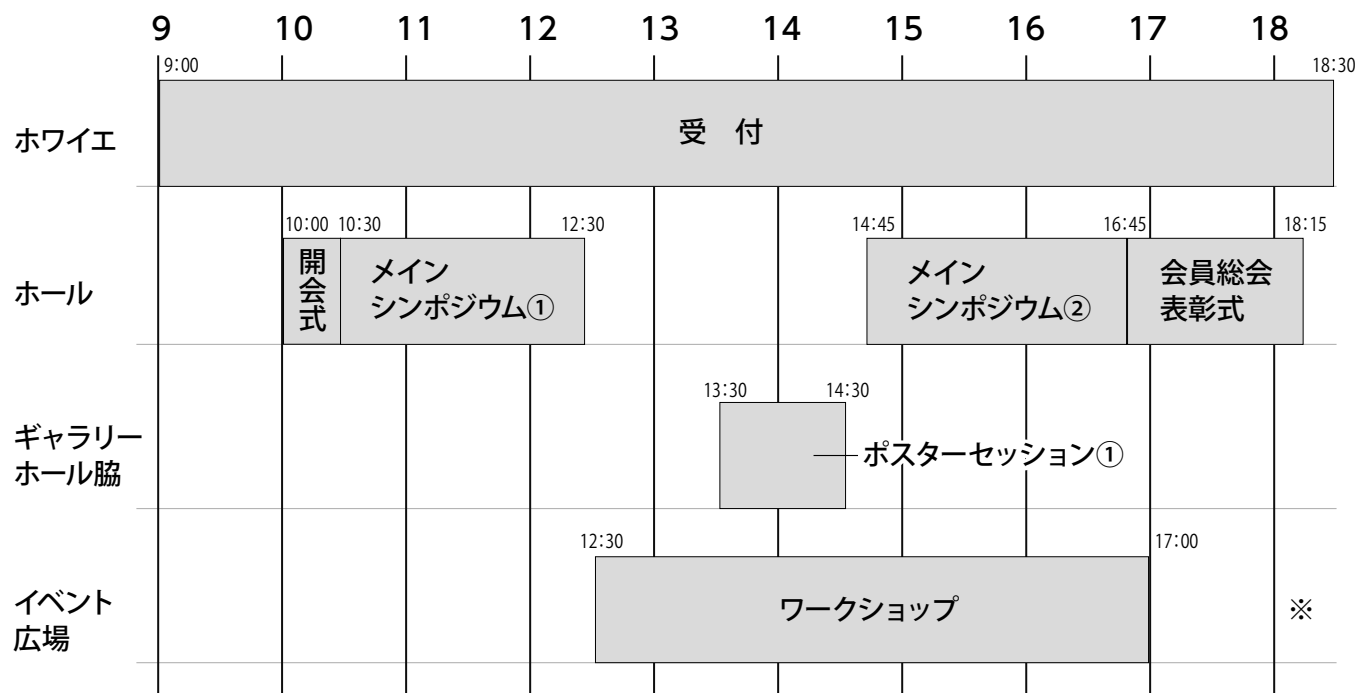
横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授。地域貢献センター長。博士(工学)。

仙田満氏に師事し、(株)坂倉建築研究所、横浜国大を経て2011年より現職。専門は建築・都市計画、参画型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学。

第26期内閣府学術会議こどもの成育環境分科会委員長、日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり委員の他、国交省や厚労省の専門委員、複数自治体で建築審査会、住宅政策審議会、地域まちづくり審議会、子ども・子育て会議等の委員や子育て支援やまちづくり等の認定NPO団体の理事・監事も務める。代表編者『まち保育のススメ(萌文社)』は第13回こども環境学会賞(論文・著作賞)、第14回日本都市計画家協会神奈川支部賞を受賞。

タイムスケジュール

6月1日(土)



※ 懇親会：18:30-20:00
イベント広場

6月2日(日)



交通案内

- **会場：建築会館**
(〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20)
- **JR 田町駅、都営地下鉄三田駅**
(浅草線・三田線) 徒歩 3分



会場案内

ギャラリー・ホール脇

6/1 (土)
ポスターセッション①

6/2 (日)
ポスターセッション②

ホール

6/1 (土)
開会式、メインシンポジウム①、②
会員総会・学会賞等の表彰式

6/2 (日)
分科会 I、II、優秀ポスター表彰、
指定口頭発表会、閉会式

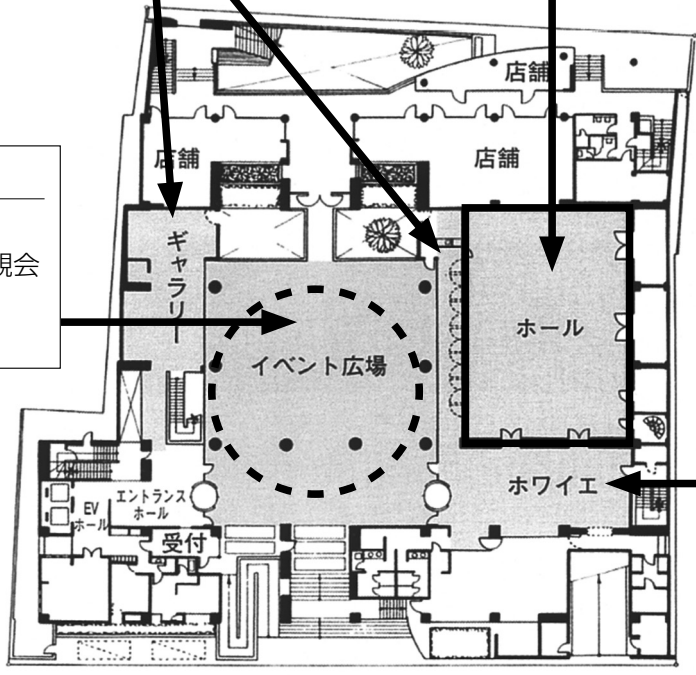
イベント広場

6/1 (土)
ワークショップ、懇親会

6/2 (日)
ワークショップ

ホワイエ

6/1 (土) 受付
6/2 (日) 受付





大会プログラム

こども環境学会20周年記念全国大会(東京)

大会テーマ

こどもにやさしいまち・社会を目指して

主要プログラム

●メインシンポジウム①

多分野施策領域からのこども環境学への期待

キーノートスピーチ:

大西 宏治、三輪 律江、藤原 朋子、小酒井 淑乃

パネルディスカッション

土肥 潤也、森 祐美子、上記登壇者

●メインシンポジウム②

こどもにやさしいまち CFCI 推進とこども環境

開会挨拶:高須 幸雄

シンポジウム趣旨:木下 勇

CFCI 実践自治体首長による

子どもにやさしいまちづくり(CFCI) 推進の成果と意義の発表:

片山 健也、及川 秀一郎、若生 裕俊、石阪 丈一、仲川 げん

パネルトーク:筋生田 和哉、川崎 レナ、上記登壇者

●分科会 あいだから見るこどもの世界

I 空間を超える居場所づくりとは

話題提供:本城 慎之介、井内 聖、齋藤 紘良、友兼 大輔

コーディネーター:藤田 大輔

II みて!きいて!知って!ぼくのわたしのリアリティ

話題提供:天願 順優、塚本 岳、石見 和世、宮田 隼

コーディネーター:谷本 都栄、大西 宏治

●ワークショップ Natural Playground Inspiration

鮫島 良一、小林 大悟、鮫島 一美

(敬称・所属先略)

多分野施策領域からの こども環境学への期待

シンポジウム趣旨

この20年、世界規模でのCOVID-19の感染拡大や世界各地での紛争勃発だけでなく、国内においても東日本大震災や都市水害等の自然災害の頻発、広がる経済格差、少子高齢化の一層進展等、こどもを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、こども達は翻弄されている。そのような中、日本においても、中央省庁では2024年にこども家庭庁が設置され、こども基本法の施行、こども大綱の策定など、こどもまんなか社会の実現に向けた動きが加速しつつある。

本メインシンポジウム①では、学際的組織を目指してきた本学会の提言・事業の20年の振り返りと共に、「こどもまんなか社会」の政策的実現を主導するこども家庭庁と他領域の立場にある国土交通省よりそれぞれの今の取組を紹介いただいた上で、現場でこども・若者の参画や子育て当事者の居場所づくりを実践している実践者の方々とこどもの育ちを多領域から学際的に捉えることの意義と課題、本学会が果たすべき役割について議論したい。

プログラム・登壇者紹介

司会：斎尾 直子

(大会実行委員／東京工業大学教授／第26期
内閣府学術会議こどもの成育環境分科会幹事)

■キーノートスピーチ

こども環境学会の20年を振り返る

大西 宏治 (大会副実行委員長／富山大学教授)

こども環境学会と学術会議／防災学術連携体

三輪 律江

(大会実行委員長／横浜市立大学教授／第26期内閣
府学術会議こどもの成育環境分科会委員長)

こども家庭庁の取組

藤原 朋子 (こども家庭庁成育局 局長)

国土交通省の取組

小酒井 淑乃

(川崎市 建設緑政局 緑化フェア推進室担当部長)

■パネルディスカッション

コーディネーター：

大西 宏治 (前掲)、三輪 律江 (前掲)

パネラー：

藤原 朋子 (前掲)

小酒井 淑乃 (前掲)

土肥 潤也

(NPO法人わかもののまち代表理事／株式会社C&Y
パートナーズ代表取締役)

森 祐美子

(認定特定非営利活動法人こまちぷらす理事長)

こどもにやさしいまち CFC 推進とこども環境

主旨説明

豊田市での本大会プレセミナー（3月16日）「SDGsとCFC」にて、豊田市の子ども会議に中学1年生から参加していた高校3年の蒔生田和哉さんが「次世代」や「子どもの視点」という表現を否定した。自分たちは今を生きる当事者であると。未来を確実にするためにも、SDGsとCFCは一体的なもので、子どもたちも主役の一員として、Think Globally Act Locallyの取り組みを進める変革の必要性がこの時、確認された。

（大会挨拶に述べたように）本学会は設立総会以来20年間、CFCの推進に取り組んできた。2009年の千葉大会開催時に第1回アジアパシフィック地域CFC国際会議を開催した。その時からCFCの推進への日本ユニセフ協会と本学会との連携が始まった。

2015年にSDGsが設定され、先進国のミッションがより明確になったことで、日本でもCFCを推進する動きにつながり、日本ユニセフ協会を事務局として、国内で推進されてきた。その結果、ニセコ町、安平町、富谷市、町田市、奈良市の5自治体が実践自治体となり、現在は豊田市が候補自治体となっている。

今や世界はさまざまな危機に面している。ウクライナへの攻撃、そしてイスラエルとパレスチナで続く武力の応酬、スーダンの紛争激化。いつでもどこでも最大の犠牲者は子どもたちだ。まさに人間の安全保障、持続可能性がおびやかされる事態に、国際社会は対応できていない。気候危機に対する取り組みも同様である。

2022年世界子ども平和賞を受賞した川崎レナさんは授賞式の演説で「政治家は子どもたちに夢を与える『かっていい大人』になってください」と訴えた。

今回、CFC推進する首長の発表の後に、川崎さんと蒔生田さんの二人の19歳の若者と首長が討議する。

プログラム

司会進行：三輪 律江

（大会実行委員長／横浜市立大学教授／日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり委員）

① 開会挨拶 高須 幸雄

（公益財団法人日本ユニセフ協会会長）

② CFCI 本部よりのビデオメッセージ

Manuel Fontaine マニユエル・フォンテーン
（ユニセフ子どもの権利アドバイザー）

③ シンポジウム趣旨 木下 勇

（学会長／大妻女子大学教授／千葉大学名誉教授、
日本ユニセフ協会子どもにやさしいまちづくり委員長）

④ CFCI 実践自治体首長による子どもにやさしいまち づくり（CFCI）推進の成果と意義の発表

北海道 ニセコ町 片山 健也町長
同 安平町 及川 秀一郎町長
宮城県 富谷市 若生 裕俊市長
東京都 町田市 石阪 丈一市長（ビデオ発表予定）

⑤ パネルトーク：上記の壇上

3名の首長と下記2名の子ども・若者の代表と
蒔生田 和哉さん
（中部大学1年生／前豊田市子ども会議子ども委員）

川崎 レナさん
（2022年国際子ども平和賞受賞者／NPOアース
ガーディアンズ日本支部代表／現在留学中）

コーディネーター：木下 勇

あいだから見るこどもの世界



写真1 マンションのあいだの「こども道」



写真2 保育園児の遊び場となったまちのあいだの広場

こども環境学会は、様々な分野や立場の人々が参画している。学会設立からの20年間は、こどもの成育環境向上のため、様々な専門分野、空間、制度の領域を超えて連携してきた。すなわち、それら「あいだをつなぐ」活動であったとも言い換えられる。また、本学会は「こどもの代弁者」としてこどもの視点が第一であることが共通認識で、様々な分野の方々がこども環境の在り方を考究することを常としてきた。

本学会の大会では、多様な問題意識に応えるべく、毎回、4つ程度の分科会を設定し、現代的なこども環境に関する課題を検討してきた。20周年記念大会では、これまでの大会とは異なり、分科会を2つと限定し、共通テーマを設定することで議論を深める。共通テーマは「あいだから見るこどもの世界」である。「あいだ」とはさまざまな事柄が想像されるが、こども環境学からは、こどもにとっての「空間・時間・仲間」、いわゆる「三間（さんま）」が重要であることを数多くの研究者、実践者が説明している。こどもにとっての「さんま」を意識しながら、分科会Ⅰ、Ⅱとも構成されている。

分科会Ⅰのテーマは「空間を超える居場所づくりとは」、分科会Ⅱのテーマは「みて！きいて！知って！ぼくのわたしのリアリティ」である。

分科会Ⅰでは、こどもを一定の仕組みに押し込めている空間を解き放って居場所としてきた事例を通じて、「さんま」の問題を考える。分科会Ⅱでは、こどもを支援す

る制度と制度の間にあり、社会からこぼれ落ちそうになるこどもに、空間や仲間を得る場を提供する取り組みに焦点を当て、新たな形で生み出されてきた「さんま」に関して、こどもの生活のリアリティを意識しながら議論を深めていきたい。

【分科会趣旨説明】

あいだから見るこどもの世界……………大西 宏治

【分科会Ⅰ】

空間を超える居場所づくりとは

【分科会Ⅱ】

みて！きいて！知って！ぼくのわたしのリアリティ

【分科会まとめ】

分科会Ⅰ・Ⅱを通じてみる課題と展望……………仲 綾子

分科会コーディネータ

大西 宏治 (OHNISHI Koji)

大会副実行委員長／富山大学人文学部教授
人文地理学の視点からこどもの時間と空間、仲間の成立する地域社会のあり方を考えたり、地理情報や地図を活用したあそび環境の分析、こどもの安全・安心なまちづくりへの支援を行っている。

仲 綾子 (NAKA Ayako)

大会副実行委員長／東洋大学福祉社会デザイン学部教授
環境デザイン研究所にて保育園やこども病院の設計を担当し、その頃からこどもとともに建築を学ぶワークショップを行い、25年以上続けている。

空間を超える居場所づくりとは



ブランコにあって、ターザンロープにないもの。
ブランコになくて、ターザンロープにあるもの。
(軽井沢風越学園)



地域と一体の多用途図書室
(安平町立早来学園)



影しか通れない縛りプレイ
(渋谷東しぜんの国こども園)



水と存分に戯れる
(川崎市子ども夢パーク)

分科会の共通テーマである「あいだから見るこどもの世界」を受け、分科会1では、あいだの中でも「空間・場所」を中心に置いた分科会を企画した。空間をどのようにするか、またはどう活用するかについて、魅力的な空間・場所づくりに関わった方々に登壇いただき、その苦労や人々とのつながり、または運営上の工夫について解説いただく。具体的な「空間・場所」は、1) 幼稚園から中学校までの12年間を自然豊かで活力あふれた環境で過ごせる学園、2) 地域の宝である子どもたちが過ごす場を町民参加のワークショップで実現した学校、3) さまざまな関係や環境と繋がりながら過ごす保育園、4) 水や泥、火や木材などの自然素材を子どもが自由につくりかえられるプレーパーク、の4つである。登壇者と会場参加者の議論から、こども環境のあり方に関する思考が一步前進できるような会を目指したい。

- 【趣旨説明】空間づくりから見るこどもの世界…………… 藤田 大輔
- 【話題提供1】ブランコとターザンロープのあいだ…………… 本城 慎之介
- 【話題提供2】自分が“世界”と出会う場所…………… 井内 聖
- 【話題提供3】海の幸 山の幸 都市の幸 そして保育の幸…………… 齋藤 紘良
- 【話題提供4】“やってみよう”からはじまる場づくり…………… 友兼 大輔

司会・コーディネータ
藤田 大輔 (FUJITA Daisuke)

大会実行委員／豊橋技術科学大学大学院 教授／atelier-fos 一級建築士事務所

専門は建築計画学および環境行動学。保育施設の建築計画を中心に人間と環境の関わりについて幅広く研究し、その知見を活かした設計を実践している。また、複数の保育施設で保育空間の環境改善アドバイスや場所づくりワークショップを行っている。

パネリスト1

本城 慎之介 (HONJO Shinnosuke)

学校法人軽井沢風越学園 理事長
設立12年後の2032年3月に引退することを公言している。いろいろなことをやってきてはいるが、やりたくないことは極力やらないように全力を尽くしている。

パネリスト2

井内 聖 (IUCHI Sei)

学校法人リズム学園 学園長
公立中学校教員から幼児教育へ転身。安平町立早来学園開校にあたっては震災直後から教育委員会に出向し、住民と一緒に学校づくりを進める。公私連携の視点から0歳から15歳までの一貫した教育まちづくりに取り組んでいる。

パネリスト3

齋藤 紘良 (SAITO Koryo)

作曲家／社会福祉法人東香会理事長／築田寺副住職
日ごろから子どもが育ち、暮らし、老いて死んで次に向かうための環境や文化を考えている。保育施設の運営、500年間続く祭りの創造、寺院の再興、映像番組への楽曲提供など、活動は多岐にわたる。

パネリスト4

友兼 大輔 (TOMOKANE Daisuke)

川崎市子ども夢パーク所長
学生時代から子どもの多様な育ちや、子どもの居場所に興味を持ち、「フリースペースたまりば」に関わっている。また同時期から、「川崎市子ども夢パーク」の運営準備会委員となり、子どもの遊び場・居場所づくりを20年以上取り組み続けている。

分科会Ⅱ

みて!きいて!知って! ぼくのわたしのリアリティ



話題提供1
コスモストーリー保育園の園庭で



話題提供2
笑顔がはじけるプレーパーク



話題提供3
子どもへの病気や治療の説明ツール(一例)



話題提供4
ひとのまがラジで餅つき

子どもたちが生きる3つの間(空間・時間・仲間)が変質していくなかであって、ライフステージを通じて一人ひとりの子どものウェルビーイング(バイオ・サイコ・ソーシャルな包括的健康)をどのように担保していくかが課題となっている。

空間的にも時間的にも、人間関係においても、社会=大人たちが創り出した環境や枠組みに押し込まれ、息苦しさを感じている子どもや若者が少なくない。家庭・学校・地域での生活では何かと効率性や容量のよさが求められ、子どもたちが自分らしく自由でいられる場、心やすらぐ場を見出すことが難しくなっている。

分科会Ⅱでは、国や自治体の制度的枠組みからこぼれ落ち、あるいは適応できずに生きづらさを感じている子どもたちの課題解決に取り組む登壇者が話題提供する。子どもがいきいきと生きられる「間」をどのように取り戻していくのか? 見守る大人の役割は? 保育・教育・医療・福祉・まちづくりなどの様々な領域における「すきま(隙間)・はざま(狭間)にある子どもたちのいま、そしてこれから」について「こども目線」で議論を深めていく。

- 【趣旨説明】すきま・はざまにある子どもたちの声を聴こう……………谷本 都栄
- 【話題提供1】「子どもの声」を中心とした保幼小接続……………天願 順優
- 【話題提供2】「遊ぶ」をベースとしたコミュニティづくり……………塚本 岳
- 【話題提供3】移行期医療における子どもの病気の理解……………石見 和世
- 【話題提供4】ひとのまでの子どもたちとの日々……………宮田 隼

コーディネーター1
谷本 都栄 (TANIMOTO Toe)

大会実行委員/帝京大学沖永総合研究所准教授、遊びからスポーツ、アウトドアレクリエーションを軸に、人と人、人と自然を結びまちづくりに携わる。こども環境学会では、自治体の保育施設における園庭改善プロジェクトを担当。

コーディネーター2
大西 宏治 (OHNISHI Koji)

パネリスト1
天願 順優 (TENGAN Junyu)

大会実行委員/コスモストーリー保育園園長、沖縄キリスト教短期大学保育科非常勤講師。

琉球大学大学院教育学研究科修士課程修了。就学移行期における「子どもの声」に着目した実践と研究、沖縄における地域の特色を活かした接続や連携に詳しい。

パネリスト2
塚本 岳 (TSUKAMOTO Takeshi)

日本冒険遊び場づくり協会地域委員、名古屋市緑児児童館館長(こどもNPO副理事長)、あいち森のようちえんNW代表。愛知県名古屋及び近郊にて公私ともにプレーパーク、児童館、森のようちえんと、幅広く子どもに関わっている。

パネリスト3
石見 和世 (IWAMI Kazuyo)

帝京大学医療技術学部看護学科准教授/小児看護専門看護師。

小児医療に関心を持ち、小児看護のスペシャリストの資格を取得し、子どもの病気の理解、慢性期にある子どもと家族の看護、子どもの権利などをサブスペシャリティとして取り組む。現在は大学教育と併行して、都内の小児専門病院でも活動を継続している。

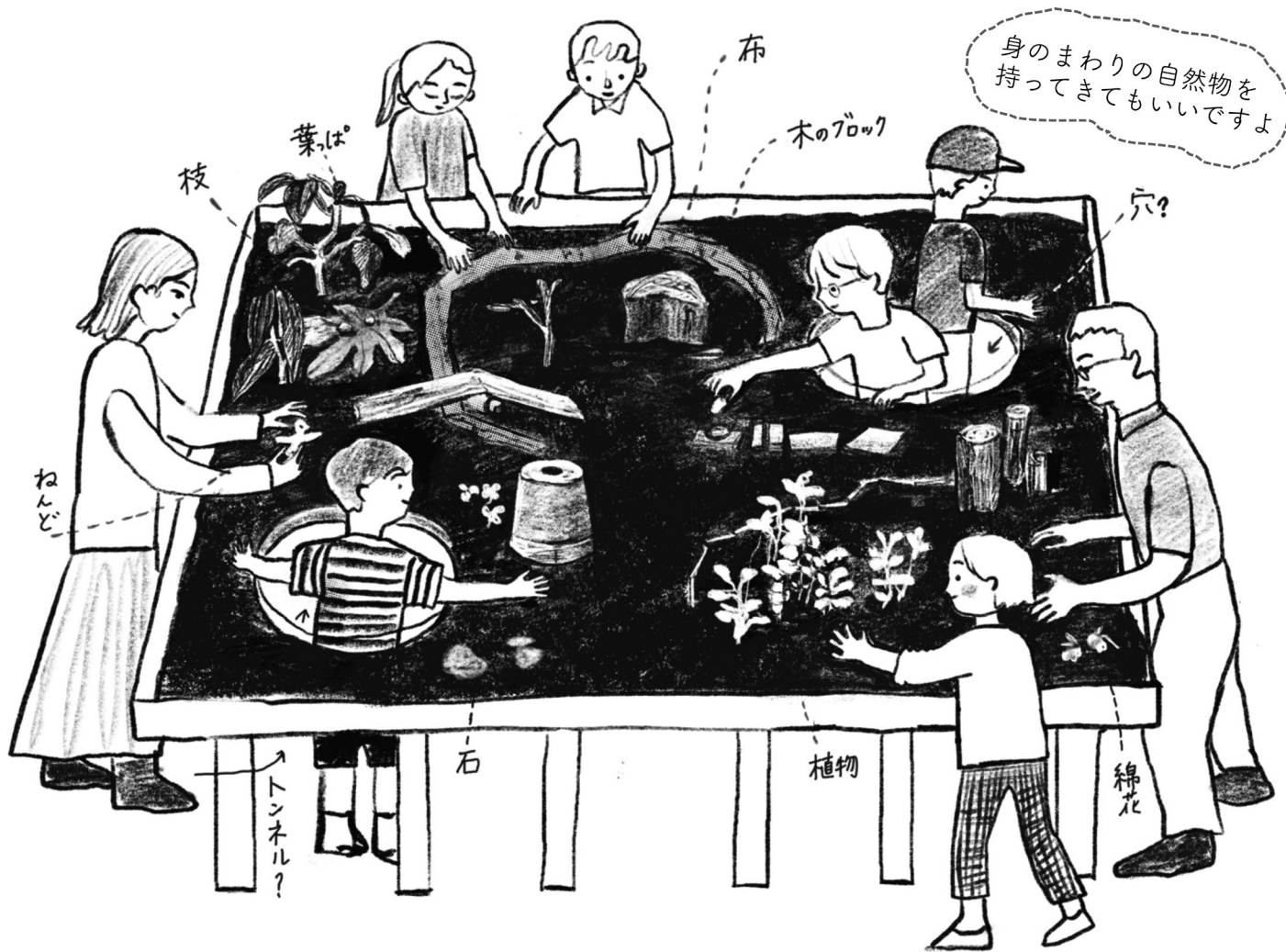
パネリスト4
宮田 隼 (MIYATA Jun)

一般社団法人なかのま代表理事。富山県高岡市にて『コミュニティハウスひとのま』という名前で「誰でも来ていいよ」という活動をしている。開放して10年あまりになるが、不登校、ひきこもり、生活困窮者、刑余者など、いろんな人と多く接してきた。「支援」という形で接するのではなく「お友達」くらいの感覚で付き合っている。

Natural Playground Inspiration

ナチュラル・プレイグラウンド・インスピレーション

昨年 ISGA のブラジル大会（国際校庭園庭連合 2023 会議）で出会った素敵なワークショップを
 今度の「こども環境学会 20 周年記念全国大会（東京）」（6/1、6/2 建築会館）にて行います。
 身近な自然物を使って、一緒にわくわくするような遊びの園を作ってみませんか？



●日時：**6月1日**（土）12時30分～17時
2日（日）9時～16時

●場所：建築会館（田町）イベント広場

●対象：子ども、大人
 *幼児の場合は大人同伴

●参加方法：どなたでも自由に参加できます。

●参加費：無料（当日受付）

*庭のようすは参加者の手によって刻一刻と姿を変えていきます。土の上がいっぱいになった際は、スタッフももとの土の姿に戻します。

●ファシリテーター

鮫島良一

大会実行委員／子どもたちの中から豊かな表現が生まれ育つ環境づくりを研究しています。鶴見大学短期大学部准教授・同附属三松幼稚園園長、国際校庭園庭連合日本支部運営委員。

小林大悟

画家、絵本作家。とびらプロジェクト修了生。作家活動と共に、放課後等デイサービス、介護施設や美術館等で講師も行う。多摩美術大学日本画専攻卒業。

鮫島一美

画家。自身の制作と行き来しながら、子どもののびのびとした造形活動の実現を目指し図工室で活動中。多摩美術大学日本画専攻卒業。都内小学校 図工専科教諭。

こども環境学会 20周年記念大会 実行委員会・大会実行委員会

●大会委員会

大会委員長	仙田 満	東京工業大学 名誉教授
大会委員	小澤紀美子	東京学芸大学 名誉教授
	當本ふさ子	こども環境学会事務局

●実行委員会

実行委員長	三輪 律江	横浜市立大学 教授
副実行委員長	仲 綾子	東洋大学 教授
副実行委員長	大西 宏治	富山大学 教授
実行委員	安部 芳絵	工学院大学 教授
実行委員	景山 紘翔	横浜市立大学 共同研究員
実行委員	加藤 カヨ	日本ユニセフ協会
実行委員	北方 美穂	萌文社、日本フィンランド協会
実行委員	木下 勇	大妻女子大学 教授、千葉大学 名誉教授
実行委員	後藤智香子	東京都市大学 准教授
実行委員	斎尾 直子	東京工業大学 教授
実行委員	佐久間 治	九州女子大学 特任教授
実行委員	鮫島 良一	鶴見大学短期大学部 准教授・附属三松幼稚園 園長
実行委員	仙田 考	田園調布学園大学 准教授
実行委員	高木 真人	京都工芸繊維大学 教授
実行委員	田川 正毅	東海大学 教授
実行委員	谷本 都栄	帝京大学 准教授
実行委員	玉田 雅己	こども環境学会事務局
実行委員	辻谷真知子	お茶の水女子大学 助教
実行委員	寺田 光成	日本体育大学 助教
実行委員	天願 順優	コスモストーリー保育園 園長
実行委員	藤田 大輔	豊橋技術科学大学 教授
実行委員	三木 祐子	帝京大学 教授
実行委員	三宅美千代	帝京科学大学 専任講師